

第5回 川越市初雁公園基本計画審議会指摘事項とその対応

項目	発言者	番号	指摘事項	指摘事項への対応	
意見公募の結果・基本計画について	富士見櫓	小池	1	• パブコメにおいて「中期で検討してまいります」という回答（案）となっているが、中期ではなく短期でどうするべきかを考える必要があるのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> 富士見櫓跡についても貴重な遺構であることより、短期では、安全に見学ができるように環境整備を行うとともに、富士見櫓跡の整備方法の検討を進めると追記した。中期で富士見櫓跡の整備を行うとしており、このための準備と検討は短期のうちから始めることになる。先送りにしていると誤解されないようにした。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P119 参照）</p>
		会長	2	• 富士見櫓の件については先延ばしにはしてはいけない。整備に対する機運情勢に対して市が踏み込んでいかないとかなければならぬと考えられるので、是非短期のうちに準備して頂きたい。	
		池浜	3	• 富士見櫓の件について、多くの強い意見があることに改めて復元の重要性を感じた。富士見櫓と全体の景観について真剣に検討することを提案していくべきでないかと考える。クラウドファンディング等で、復元しようとする機運が高まってくる可能性もある。富士見櫓の復元を基本計画に盛り込んで頂きたい。	
		紀村	4	• 今後は、何ができるのかということ踏まえて検討して頂きたい。	
	案内所展示	戸田	5	• 施設配置の意見の対応（案）の記載について、「川越城、川越藩の歴史、城下町の歴史等の川越の魅力伝えること」とされているが、案内所等にそういうスペースは必要ないのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> 案内所（カフェ）に一部展示スペースを設け、立ち寄ったとき、食事や休憩をしているときに眺められるようにするものであって、本格的な展示をするコーナーを設けてはいるのではない。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P100、101 参照）</p>
	博物館・学校教育との連携	谷川	6	<ul style="list-style-type: none"> 運営協議会の中では、学校教育関係者の参画は記述されていない。 また、博物館と一体になって学校教育や生涯学習と連携することを盛り込んでいかないといけない 	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園の運営・維持管理の主体のなかに、博物館の他、学校教育部局、生涯学習部局を明記し、運営協議会の主な協議事項に、博物館との連携、学校教育、生涯学習との連携を記載した。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P117、118 参照）</p>
		会長	7	• 主な協議事項の中に歴史公園の運営に相応しい項目を入れるといいのではないかと。	
	高齢化社会への対応	牛窪	8	• 2025年度に国民の4分の1が75歳以上になると言われていて、体が弱くなっていくのも75歳以上と言われている。そこにいけば、安心して散策できるという場所にして頂きたい。	<ul style="list-style-type: none"> 案内所（カフェ）の導入機能として、安心して散策ができるようにすることを明記した。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P100 参照）</p>
	土塁植栽	紀村	9	• 「土塁の樹木については、木の根の効果で法面が維持できているという面もある」という回答（案）であるが、土塁の構造上、人為的に強く叩いて締め固めをやっていたものなので、樹木特に高木が根を張っていくのは、土塁の機能を弱める要素が強い。	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的に土塁に木を植えたのか、植えなかったのかは、現時点では、不明である。ただし、現状の土塁の樹木は伐根してしまうと、遺構が崩れてしまう恐れがあるため、慎重な検討が必要である。また、「史跡川越城跡」の本質的価値として、「城の鎮守としての三芳野神社と社叢・参道及び周辺の土塁群に城址としての景観を留めていること」とあり、植栽計画のなかでも、「歴史遺産と調和した自然景観の保全」として既存樹木を維持するものとしている。 植栽計画の基本的な考え方として、「歴史公園としての樹木のあり方と市街地の公園としての樹木のあり方のバランス等を勘案し、全体の景観を踏まえたうえで樹木の維持、除伐、新規植栽を行う。」としている。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P107 参照）</p>
		谷川	10	• 土塁に木を植えないということはない。江戸城外堀にある土塁については、造った当初から木を植えている。今回の場合は、全体の景観がどういうものを目指していくのかという目標を持った形で植栽の問題を考えることが大事であると考えられる。	
	ベンチ	森脇	11	• 芝生広場の活用方法が色々あると考えられるが、芝生広場の隅にベンチを設けたりする配慮が必要であると考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園基本計画図には、広場毎に適宜ベンチを配置しており、休憩施設として、四阿を6箇所配置し、案内所（カフェ）と休み処を補完するものとなっている。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P73 参照）</p>
	マネジメント	会長	12	• マネジメントとマネージメントの2種類の表現をしていたが、マネジメントに統一をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> マネジメントに統一した。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P115～118 参照）</p>
	耐水性貯水槽	会長	13	• 耐震性貯水槽の検討をお願いしたい。ここは史跡であり厳しいかもしれないが、水道本管につなぐ卵型のようなもので、自衛隊が来るまでにもものすごく効果がある。	<ul style="list-style-type: none"> 避難所として機能するように、耐震性貯水槽の設置を遺構の保全に配慮しながら検討している。 <p style="text-align: right;">（基本計画書案P110 参照）</p>

項目	発言者	番号	指摘事項	指摘事項への対応
初雁公園のテーマについて	会長	14	<ul style="list-style-type: none"> 運動公園から歴史公園に変えるため、そのことが分からないとテーマにならないので、歴史公園に相応しいテーマを考えたい。文化財と公園の共存をテーマとして考えると、「時が人を結ぶ公園」がいいのではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史公園に相応しいテーマとして、「時が人を結ぶ公園」を基本に、より分かり易く「歴史が人を結ぶ公園」とした。 (基本計画書案 P61 参照)
	牛窪	15	<ul style="list-style-type: none"> 市人口の4分の1が高齢者になるということで、この人たちにどうしても歩いてもらい健康になってもらわないと、川越の先行きがなくなってしまう。 歴史を種にして、外で歩いてもらうことで町の環境がよくなり、公園に行くのにも、安心して散策できて、安全というコンセンサスを持てれば、非常に良い公園になるのではないかと考えている。 歴史と人が集まるというキーワードが入ったテーマがいいと思う。 	
	会長	16	<ul style="list-style-type: none"> メインテーマを「時が人を結ぶ公園」とし、副題として「健康長寿社会」といった行動を起こすような内容を盛り込むことも検討できる。 	
	大久保	17	<ul style="list-style-type: none"> 「歴史が人を結ぶ公園」というのもいいのではないか。時とつけると時の鐘を連想させる。川越城があるということ踏まえると歴史という言葉をつけたほうがいいのではないか。 	
	戸田	18	<ul style="list-style-type: none"> 歴史と人を結ぶ公園もいいのではないか。 	
	江田	19	<ul style="list-style-type: none"> 時と人をつなぐ公園もいいのではないか。 	
	近藤	20	<ul style="list-style-type: none"> 説明の中でこだわりがあった歴史(時)という言葉について、()で表すのはどうかと思うので、歴史という言葉で表すのがいいと思う。 	
基本計画書(案)について	会長	21	<ul style="list-style-type: none"> 本日議論したマネジメントの内容については、記載をお願いしたい。今までは、公園を整備した後に管理はどうするのかという方法だったが、マネジメントを考えたらうえて、公園計画を行っていることを明確にしてもらいたい。 これからは、活用が大事だ。現状は使いこなせていない。まえがきにマネジメントの重要性等を考慮した記述を付け加えてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 初雁公園運営・維持管理方針のなかで、運営・維持管理のねらいと市民参画、民間活力の導入の必要性や、その体制イメージを示し、マネジメントの重要性を伝える文章・図を追加した。また、川越市と市民、民間との相互連携の形態も誤解のないように修正した。 (基本計画書案 P116、117、118 参照)
	池浜	22	<ul style="list-style-type: none"> 説明資料 P.9 では、市、市民、民間など、全体が参加して同じように連携していくと書かれているが、基本計画(案) P.116 では、川越市と民間、民間と市民が連携するような図となっており、これでは川越市と市民が連携していないことになるのではないか。 	

委員からの指摘事項とその対応

項目	指摘事項	指摘事項への対応
植栽	樹木の関係で、高木の植栽があるが、記述では樹高 2m未満までとなっており、計画との整合が図られていない。	樹高 2m未満の樹木のほか、「試掘調査等により地下に埋蔵される遺構等に保存状況に支障がないと判断されるもの」を追記した。 (基本計画書案 P4 参照)
記述方法	中ノ門堀跡、富士見櫓跡の記述方法と他の項目の記述方法が違う。	修正した。 (基本計画書案 P6 参照)
記述方法	公園建設時の年度を入れた方がよい。	追記した。 (基本計画書案 P40 参照)
記述方法	富士見櫓跡で櫓が残っているような誤解を与える記述を修正した方がよい。	修正した。 (基本計画書案 P53 参照)
記述方法	トイレと便所の表現を統一した方がよい。	修正した。 (基本計画書案 P100、101 参照)
記述方法	主要建築施設計画について、文言中に位置を明記した方が分かりやすい。	どこのゾーンに位置するか、追記した。 (基本計画書案 P100、103、104 参照)
記述方法	給水設備の記述方法を他設備の記述方法を統一した方がよい。	修正した。 (基本計画書案 P111 参照)
富士見櫓	櫓台の「地山」とあるが、「盛土」ではないか。	修正した。 (基本計画書案 P119 参照)

○ご指摘のうち、軽微な誤記、追記等については含まれていません。また、事務局で内容を確認し、基本計画書として、分かりにくい部分については、追記、修正しています。